

ロシアには、それぞれの置かれた時代や状況において、それぞれの困難と格闘しながら言葉を紡いだ作家たちがいる。彼ら／彼女たちの営みに改めて目を向けること、そして、今という時代へその言葉をつなげるために私たちは何ができるのか？ 言葉を発し、伝えることがますます困難になっていく現代社会の中で、様々な立場からロシア文学と向き合う人々によるフォーラム。

2024年 **10月25日** **金**

**18:30 ~ 20:30 (対面のみ)**

**一般公開・入場無料**

**創価大学八王子キャンパス  
大教室棟 (S棟) S202**

**登壇者**

■ **高柳 聡子** 「女性たちが拓く文学の未来」

ロシア文学者・翻訳者。著書に『埃だらけのすももを売ればよい』（書肆侃侃房）、『ロシアの女性誌——時代を映す女たち』（群像社）。訳書にダリヤ・セレンコ『女の子たちと公的機関：ロシアのフェミニストが目覚めるとき』（エトセトラブックス）など。

■ **工藤 順** 「たいしたことの無いわたし（たち）が  
それでもそれなりに文学と生きていくことの話」

1992年新潟生まれ。ロシア語翻訳労働者。訳書にプラトノフ『不死』、ワッサースタイン『ウクライナの小さな町』など。プラトノフ『チェヴェングール』（石井優貴と共訳）で第9回日本翻訳大賞を受賞。詩と生活のzine「ゆめみるけんり」主宰。

**ゲスト**

■ **藤枝 大**（書肆侃侃房） ■ **前田 和泉**（東京外国語大学）

**司会・コメンテーター**

**問合せ**

ロシア文学会大会実行委員会  
taikai\_jikko@yaar.jp.org

**創価大学へのアクセス**

所在地：東京都八王子市丹木町1-236

●JR八王子駅北口より  
西東京バス（所要時間約20分）  
ひよどり山トンネル経由／八日町経由  
・「創価大正門・東京富士美術館」行き  
・「創価大学循環」  
創価大正門・東京富士美術館 で下車

●京王八王子駅より  
西東京バス（所要時間約20分）  
・「創価大正門・東京富士美術館」行き  
・「創価大循環」  
創価大正門・東京富士美術館 で下車



言葉を  
つむぐ、  
言葉を  
つなぐ

—今、ロシア文学と向き合うということ—